２０１１年(平成23年)
1月10日 (月)
第 44 号

ひまわり通信

発行所　医療法人社団立靖会 ひまわり歯科
〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 5-5-1
電　話(042)750-6143　ＦＡＸ(042)756-4334
URL：http://www.himawari-dent.net/

歯周病について　その2

新年あけましておめでとうございます。

今年もご愛読の程宜しくお願い致します。

さて、本年初となる通信は昨年最後の４３号「歯周病について」の続編として歯周病と全身疾患(糖尿病)の関係について述べてみたいと思います。

歯周病がなぜ全身疾患に影響があるの？

今までは、歯周病は口の中だけの問題と言われておりました。しかし、最近ではその影響は全身のいたるところに及ぶと言われるようになっております。歯周病とは４３号に詳しく掲載しておりますが、歯周病菌が歯と歯茎の境目に集まり、歯周組織が壊されていく病気です。

その歯周病菌が口の中だけに留まらず、毛細血管などから血液に入り込み、体全体へと巡っていくことがあります。また血管以外にも唾液などに溶け込んで気管や肺、食道に流れ込むこともある為全身疾患へ影響するというわけです。

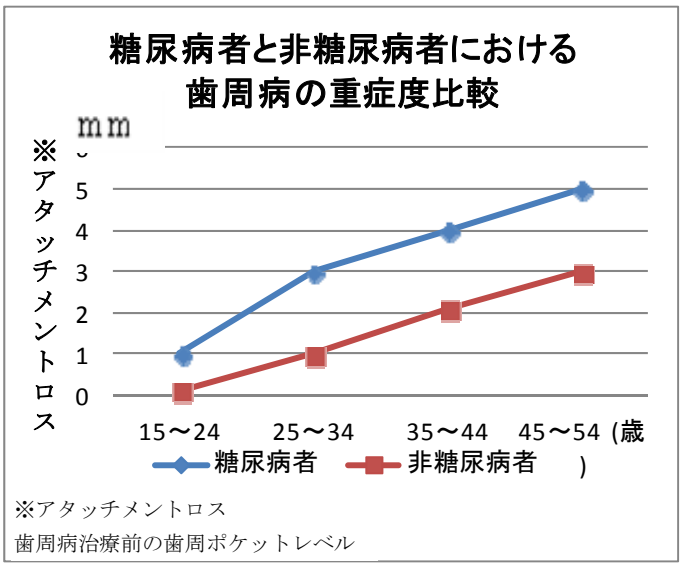
歯周病は肺炎(誤嚥性肺炎)、狭心症、心筋梗塞、感染性心内膜炎、早産、がん、糖尿病と様々な疾患に影響力をもつと言われております。

今回はその中でも最近密接な関係が注目を集めている**糖尿病**との影響いついてお話します。

歯周病と糖尿病

糖尿病は歯周病を悪化させる一因！

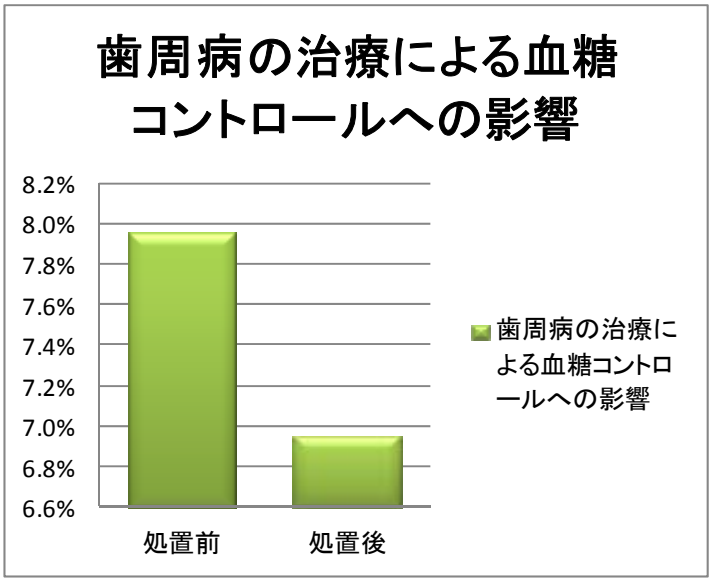
糖尿病とは何らかの原因で血糖中の糖分をエネルギーに変えるインスリンという物質が足りなかったり、十分に働かないことにより血糖値が高くなってしまう病気です。現在日本には糖尿病が強く疑われる人が７５０万人、予備軍の８８０万人を含め１６００万人以上いると推定されております。糖尿病の第６の合併症と言われているのが実は歯周病であり糖尿病の方は特にかかりやすく、重症化しやすいことが分かっております。これは歯周組織において、免疫機能低下、代謝異常、血液のめぐりの悪化などが起こり、歯周病菌に感染しやすくなる為だと考えられております。



歯周病も糖尿病を悪化させる？

糖尿病は歯周病を悪化させる要因のひとつであることは知られておりましたが、最近では歯周病も糖尿病に影響を及ぼすと考えられるようになってきました。

歯周病になると、歯周病菌によって起こる炎症や血液中にあるＴｎｆ･α(慢性の炎症があるところで作られるたんぱく質。インスリンの働きを妨げる作用がある)が増加してしまいます。これによりインスリンが利きづらい状態になって血糖値のコントロールが悪くなり、糖尿病を悪化させると言われております。



歯科治療で抗生物質を服用することや歯周病の治療を行う事で、血糖コントロールへの影響がでて、糖尿病が改善したという報告も現状でてきております。今や歯周病は口腔内だけの疾患ではなくなってきていると当院も捉えております。歯肉の腫れや出血、口臭が気になる方や自覚症状のない方も普段の予防処置（４３号参照）はもちろんの事、定期的な歯科受診で検査を受けてみてはいかがでしょうか？